

八戸市学校施設の長寿命化計画
(個別施設計画)
【概要版】

令和2年 12 月
八戸市教育委員会

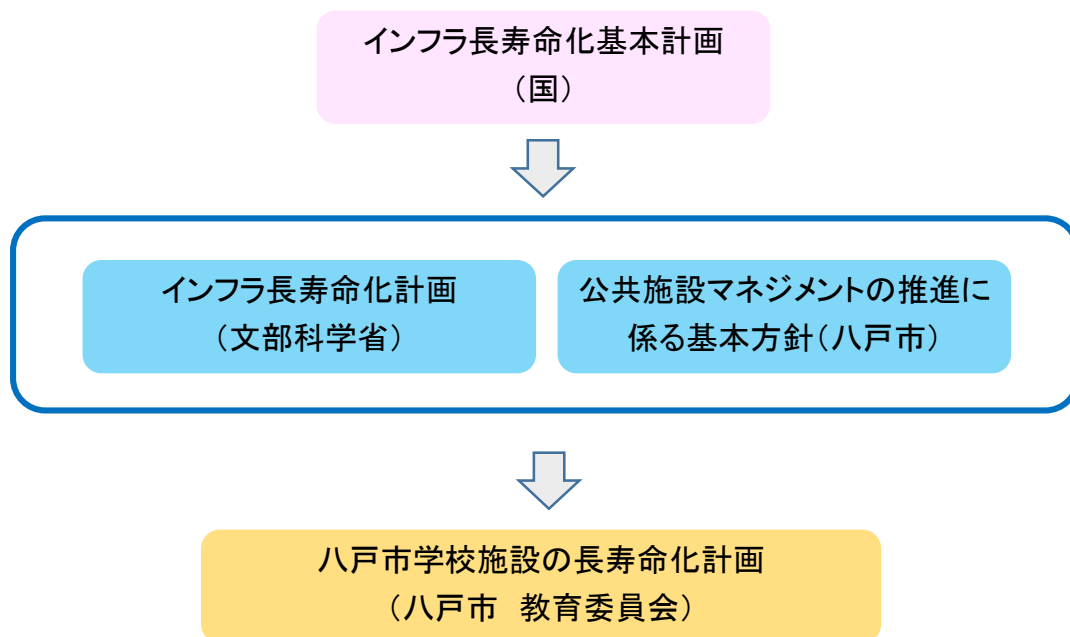
計画の背景と目的

本市の学校施設は昭和40年代から50年代にかけての児童・生徒の急増期に一齐に整備されたものが多く、令和2年5月1日現在、延床面積36.3万㎡のうち、築年数が30年以上の学校施設は28.7万㎡と全体の約8割を占めており、老朽化が進んでいます。

そこで、本計画では学校施設の現状を把握した上で、長寿命化等を計画的に推進することで、財政負担の軽減及び平準化を図り、学校施設の機能や設備を良好な状態に保つことを目指しています。

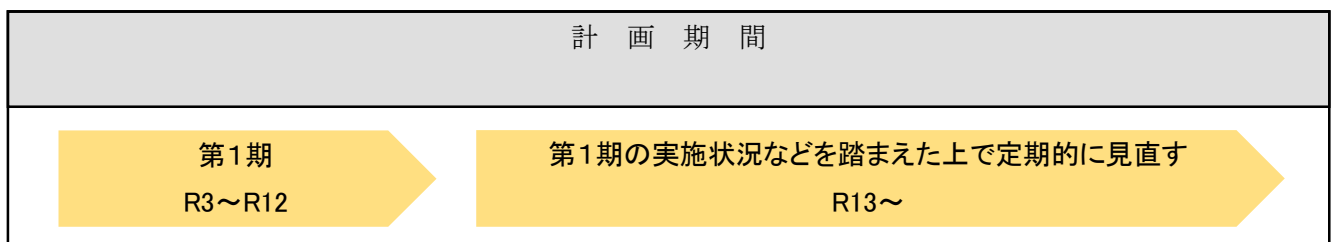
計画の位置付け

上位計画に基づき、下位計画を策定しています。



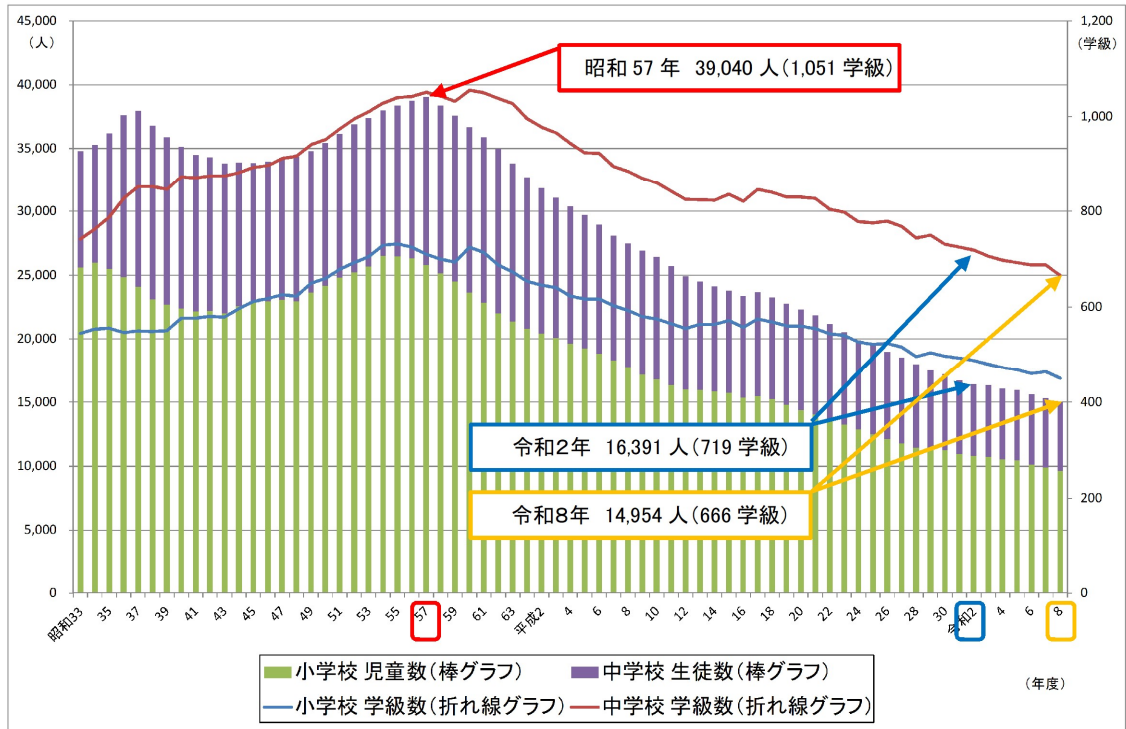
計画期間

学校施設の長寿命化は20年ごとの大規模な改修を見据えた将来展望の下、段階的に取り組む必要があることから、計画期間は令和3年度から令和12年度までの10年間とします。



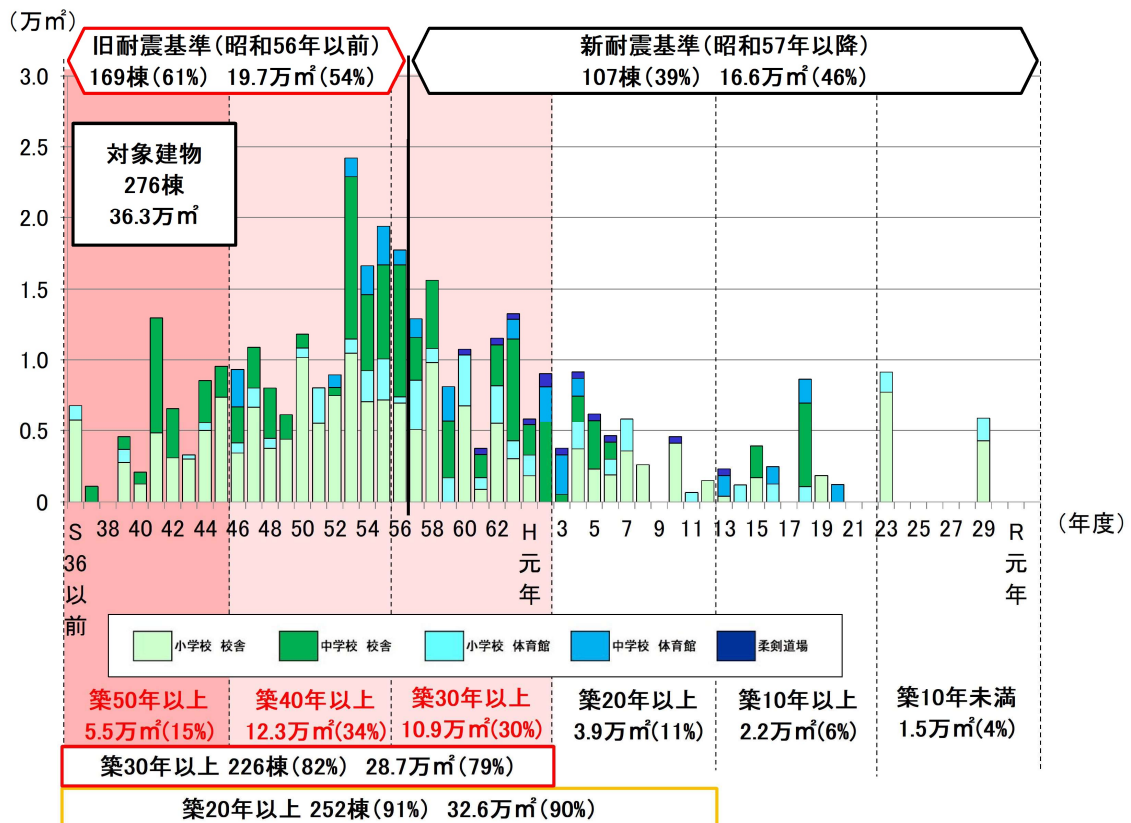
児童・生徒数の推移

児童・生徒数は昭和57年の39,040人をピークに減少傾向が続いており、令和2年5月1日現在、16,391人となっております。



学校施設の状況

市が所有する小学校は42校、中学校は24校あり、築年別整備状況は次のグラフのとおりです。



計画の基本方針

本計画の基本方針は次のとおりです。

定期点検の徹底

防災性の確保

長寿命化の推進

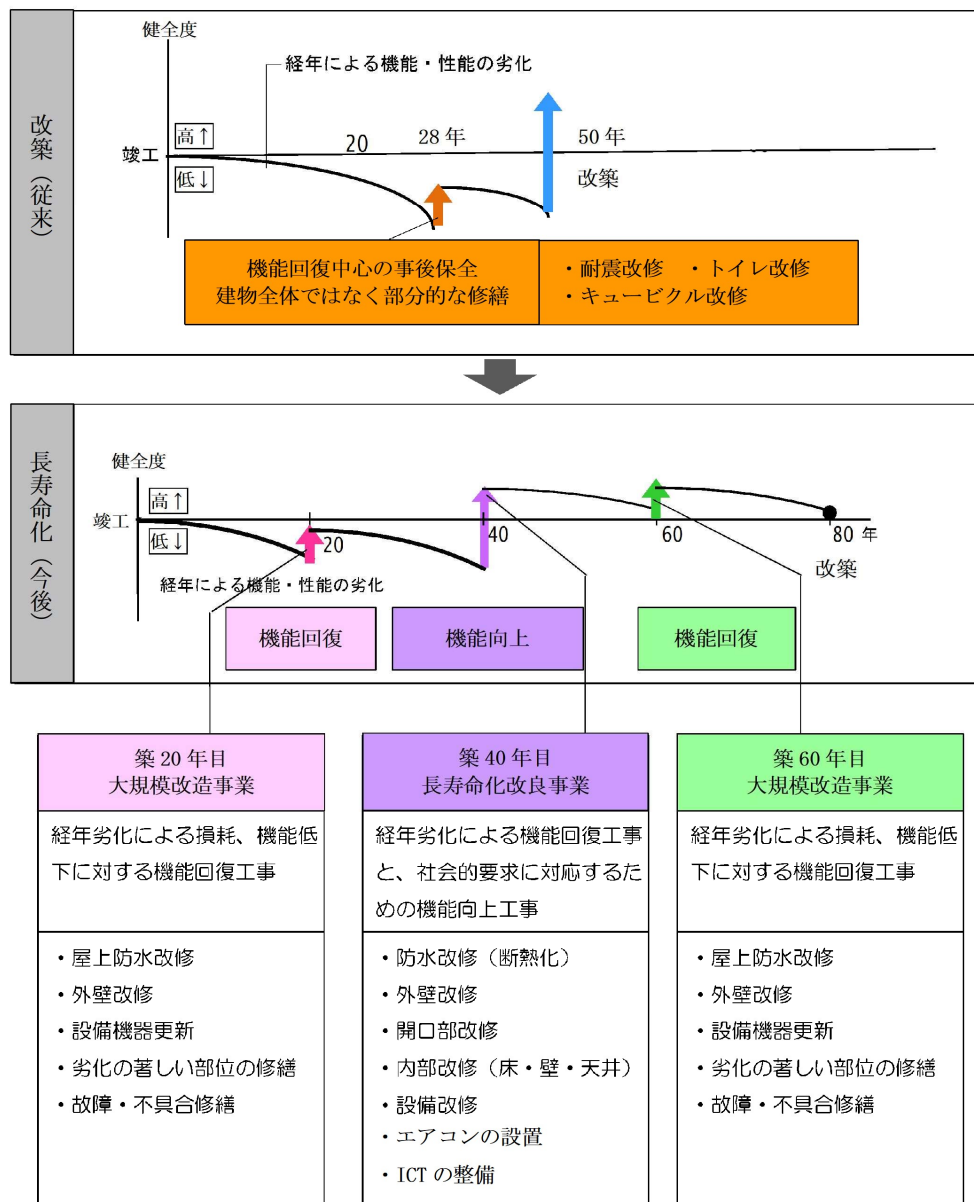
適正配置計画
との連携

施設の複合化

プールの利活用

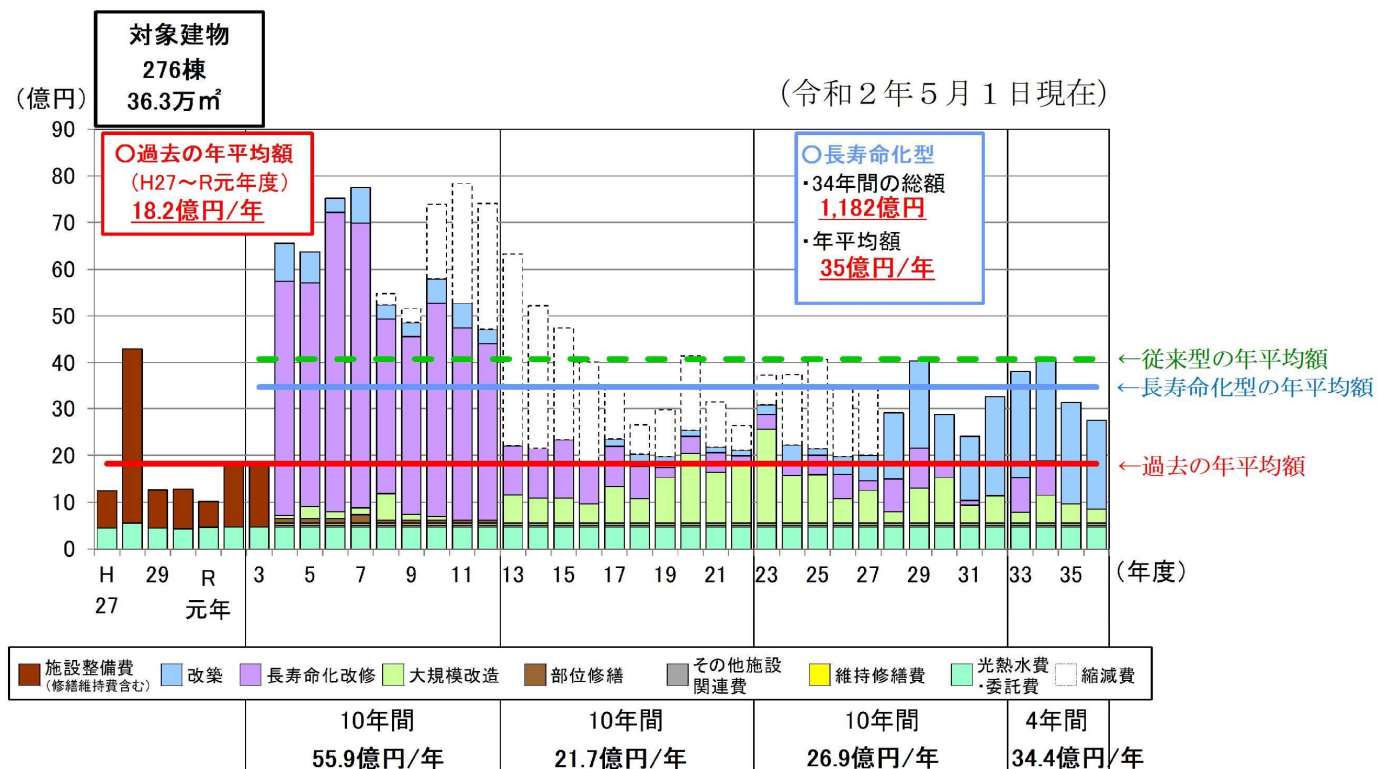
事後保全型から予防保全型への転換

従来の改築中心の事後保全型から、長寿命化中心の予防保全型の改修に切り替え、計画的に機能向上(長寿命化改良事業)と機能回復(大規模改造事業)を実施し、躯体の80年の使用を目指します。



将来の維持・更新費用の推計

従来の改築中心の事後保全型から、長寿命化中心の予防保全型に切り替えた場合であっても、過去の年平均額 18.2 億円の約 1.9 倍(35 億円)の費用が必要となる見込みです。学校施設の維持・管理をより効率的に進めるためには、適正配置計画など他の施策と連携を図る必要があります。



計画の継続的な運用方針

(1) 情報基盤の整備と活用

- ・学校施設の工事履歴や劣化状況を把握する。
- ・3年周期で劣化状況調査を実施する。

(2) 推進体制等の整備

- ・必要に応じ検討委員会を設置し、全庁的な体制で対応を図る。
- ・効果的・効率的な学校施設の管理のために、適切な学校施設の点検・確認に努める。

(3) フォローアップ

- ・PDCA サイクルの考えに基づく事業推進に取り組む。
- ・積極的に国の補助制度や起債を適切かつ効果的に活用し、財政負担の軽減に努める。

八戸市学校施設の長寿命化計画
(個別施設計画)

【概要版】

令和2年12月 策定

八戸市 教育委員会 教育総務課

〒031-8686 八戸市内丸一丁目1番1号

TEL : 0178-43-9452 / FAX : 0178-47-4997

八戸市 HP : <http://www.city.hachinohe.aomori.jp/>